

## 鉛の食品健康影響評価の骨子（案）

## X. 食品健康影響評価

（総括）鉛に対するヒトへの毒性影響全体を見た上で、ヒトのデータ、小児（胎児期、新生児期、乳児期など）、成人、神経系への影響に着目（理由）

## 1. 有害性の確認

## （1）小児への影響

神経系への影響、特に神経行動学的発達（中枢神経）への影響に着目（理由）

## （2）成人への影響

着目すべき標的器官（理由）

## 2. 用量-反応評価

## （1）曝露指標

血中鉛濃度（理由）

## （2）影響指標

小児：IQに着目（理由）、交絡因子の影響

成人：着目すべき標的器官の影響指標（理由）

## （3）疫学調査

## ①小児の神経行動学的発達への影響に関する研究

総括レビュー → エンドポイントの設定

## ②成人への影響に関する研究

総括レビュー → エンドポイントの設定

## （4）摂取量変換モデル

血中鉛濃度と鉛摂取量との相関式又は変換係数を用いた推定（根拠）

## （5）耐容摂取量の設定

## ①小児における耐容摂取量

## ②成人における耐容摂取量

## 3. 日本人の鉛曝露量

## 4. ハイリスクグループ

## XI. 結論

## XII. まとめ及び今後の課題